

研究分野のキーワード：美術史， 絵画， 歴史， 研究， 美術鑑賞

研究紹介

最近、「目に見える形で表現すること」はずいぶん簡単になりました。道で見かけたかわいい猫を写メして友だちに送ったりツイッターに上げたりする、これも表現のひとつです。目に見える形で表現したものや、それを作り上げた過程を対象にする学問が、美術史です。美術史があつかうのは、美術館にあるような昔の名画だけとは限りません。宮崎アニメやディック・ブルーナの絵本などについても、すでに多くの研究があります。

昔は、美術作品を作るのは、なかなかむずかしいことでした。シャッターを押せばきれいに写るわけではないので、上手な絵を描くためには、腕をみがき、良い画材を研究しなければなりません。こうして、レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロのような天才も含めて、多くの芸術家たちが互いに教え合ったり競い合ったりしました。すごい才能のある人が生涯をかけて生み出した作品を相手にするだけに、こういう研究ももちろん非常に魅力的です。

美術史の研究は、趣味としての美術鑑賞とは違うものなので、感想文を書くのが課題ではありません。「絵を見て君が感じたことは何でも正解だ」ということもありません。

むしろ美術史の研究は、警察の捜査に似ていることがあります。

一見ミレーの作品だが、本物かどうかわからない絵があったとします。どうすれば本物が偽物かがわかるのでしょうか。

筆遣いの癖などは、当然真っ先に調べます。特殊な光線をあてて絵の具の成分を調べることもします。キャンバスの裏の繊維を顕微鏡で見たりもします。ミレーや家族や友だちの日記や手紙などを読んで、その絵について何か触れていないかも調べます。市役所に残っている税金支払いの記録から、ミレーの絵がどれくらい売れていたかを調べたりもします。

そして、その絵が描かれたと思われるだいたいの時期がわかれば、その頃にそもそもミレーがそういう絵を描く気持ちになっただろうかということも想像します。警察ドラマに出て来る、プロファイリングという手法に似ています。

そういう調査のすべてが矛盾なく符合したら、それは本物です。犯罪捜査も美術史研究も同じく、「真実はいつもひとつ」なのです。

美術史は、もともと「美術の歴史」であって、学際的な学問です。これから、一方では表現の方法が変化し、一方では学問の諸分野が発達します。それにつれて、美術史研究の可能性は今後も広がっていくでしょう。